昭和医科大学横浜市北部病院麻酔科専門研修プログラム

昭和医科大学
SHOWA Medical University

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する.

麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う.

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

昭和医科大学横浜市北部病院（以下，北部病院）は，横浜市北部医療圏の急性期医療を担うべく2001年に開院した中核病院です。北部病院の特徴は一般的な診療科に加え、国際消化器内視鏡研修センター・産科マタニティハウス（地域周産期母子医療センター）・精神科病棟・緩和ケア病棟・甲状腺センター・女性骨盤底センター・病院歯科など幅広くあらゆる医療に対応可能な大学病院です．総病床数は689床で，年間の全手術件数は約12,200件，そのうち麻酔科管理件数は約7,600件あります．そのため、多彩でバランスのとれた豊富な症例の麻酔管理を経験できます．また，集中治療室・ペインクリニック外来・緩和ケア病棟もあるためサブスペシャルティとしての研修も可能です.

プログラムの概要

「スタッフや患者から信頼され，患者の命を守る麻酔科医を育成すること」がプログラムの運営方針です．本プログラムではそれぞれの高度専門施設での臨床経験を通じて，患者の命の最後の砦となれる麻酔科医を育成できる教育体制を提供します.

北部病院麻酔科は各方面に秀でた臨床能力の高い指導医が存在し，基本的手技から高度な技術まで学ぶ事ができます.

前半２年間は主に北部病院で研修を行い，麻酔学の基本的な知識・技術を習得後，ハイリスク症例など専門性の高い麻酔管理の研修を行います．各専攻医に対して均整のとれた質の高い教育を行うことを目指しています.

プログラムの特徴

■手術麻酔では外科系各科のバランスのとれた豊富な症例数があり，当院だけでも麻酔科専門医試験に必要な症例数（600 例以上、そのうち小児、帝王切開、心臓血管、胸部外科を含む）を担当することができます．また，消化器内視鏡・病院歯科・精神科（電気痙攣療法）・無痛分娩などの麻酔管理も経験できます．

■各専攻医の希望や臨床レベルに沿ったオーダーメイドのローテーションを行います．

■定期的に指導医とのフィードバック面談を行い，専攻医ひとりひとりの成長に合わせた教育体制をとっています．

■教育方針として，専門的な育成に限らず，社会人として公益性・道徳性を持つ医師の育成を目指しています．

■サブスペシャルティ領域の心臓血管麻酔専門医，集中治療専門医，ペインクリニック学会専門医，緩和医療認定医，緩和医療専門医取得に向けて，専門特化した研修を受けることができます．

3. 専門研修プログラムの運営方針

専攻医育成コースの概略

年次毎の専門研修計画

【専門研修 1 年目】

北部病院から研修を始めます．指導医の下，手術麻酔に必要な基本的手技と専門知識を習得します．さらに指導医とともに重症患者や緊急手術の周術期管理，特殊症例（胸部外科・脳神経外科・小児・産科）の経験を積みます．カンファレンス，症例検討会，抄読会，セミナーなどが定期的に開催されています．

【専門研修 2 年目】

手術麻酔の基本的診療能力の向上に加え，指導医の下，心臓血管外科を経験します．経食道心エコーを用いた術中の評価を行います．さらに学会・研究会への参加・発表を通じて専門知識の強化を図ります．

【専門研修 3 年目】

手術麻酔では基本的に一人で周術期管理することを目指します．合併症のある患者，重症患者でも自ら主体性を持って臨む様に指導します．将来専攻したい分野へのオーダーメイドの研修を組み立て，専門特化した連携施設にて多彩な経験を積むことを基本とします．手術麻酔だけでなく，個人の技量や希望に合わせ，北部病院では症例数の少ない特殊症例やサブスペシャルティ領域（心臓血管麻酔、無痛分娩の麻酔、ペインクリニック、緩和ケア、集中治療）など各分野での知識・技術を専門的に学びます．昭和医科大学麻酔科を初めとした，より専門性の高い連携施設でローテーションを行います．論文作成も指導します．

【専門研修 4 年目】

各専攻医の希望を重要視しますが，麻酔科専門医試験に備えて北部病院で再度研修を行うことを基本としています．

【専門研修 5 年目以降】

より専門性の高い領域の研修を目指します．

研修実施計画例

	A（標準）	B（心臓重点）	C(ペイン重点)	D（集中治療重点）
初年度　前期	北部病院	北部病院	北部病院	北部病院
初年度　後期	北部病院	北部病院	北部病院	北部病院
２年度　前期	北部病院	昭和医科大学病院 （ペイン、ICU）	北部病院	北部病院
２年度　後期	北部病院	北部病院	北部病院	北部病院
３年度　前期	昭和医科大学病院 （含ICU、ペイン）	関連心臓医療機関	昭和医科大学病院 （含 ペイン）	昭和医科大学病院 （含 ICU）
３年度　後期	関連病院ほか	関連心臓医療機関	昭和医科大学病院 （含 ペイン）	昭和医科大学病院 （含 ICU）
４年度　前期	北部病院	関連病院ほか	関連病院ほか	関連病院ほか
４年度　後期	北部病院	北部病院	北部病院	北部病院

週間予定表

例）北部病院　麻酔科専攻医の1週間

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	明け	研究日	ペイン	休み
午後	手術室	手術室	手術室	明け	研究日	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制

専門研修基幹施設

昭和医科大学横浜市北部病院

研修プログラム統括責任者：信太　賢治

専門研修指導医　　：信太　賢治　（麻酔全般・ペインクリニック）
岡本　健一郎　（緩和医療・ペインクリニック）
西木戸　修　（緩和医療・ペインクリニック）
坂本　篤紀　（麻酔全般・心臓麻酔）
山村　彩　（麻酔全般・気道管理）
釋尾　知春　（麻酔全般・神経ブロック・経食道心エコー）
髙橋　健一　（麻酔全般・心臓麻酔）
道姓　拓也　（麻酔全般・心臓麻酔）
荘田　博朗　（麻酔全般）
津島　佑季子　（麻酔全般）
谷本　翔太　（麻酔全般）
松土　桜子　（麻酔全般）
平井　顕　（麻酔全般）
小野　沙恵　（麻酔全般）

認定病院番号：928

特徴：手術麻酔では外科系各科のバランスのとれた豊富な症例数があるため，当院だけでも麻酔科専門医試験に必要な症例数を担当することができます．病院毎の手術症例の違いやサブスペシャルティ領域としての集中治療やペインクリニックの研修を含めて，昭和医科大学病院麻酔科を初めとした多彩な連携病院でオーダーメイドのローテーションを行います．

昭和医科大学横浜市北部病院　症例数（2025年度）	
総手術件数	12,244
麻酔科管理症例数	7,625
小児（6歳未満）の麻酔	186
帝王切開の麻酔	415
心臓血管手術の麻酔	168
胸部外科手術の麻酔	255
脳神経外科手術の麻酔	61

専門研修連携施設

昭和医科大学病院

研修実施責任者：大江　克憲
専門研修指導医：大江　克憲　（心臓麻酔、小児心臓麻酔、集中治療）
加藤　里絵　（産科麻酔、手術麻酔）
小谷　透　（集中治療）
米良　仁志　（ペインクリニック）
尾頭　希代子（呼吸管理、心臓麻酔、集中治療）
細川　幸希　（産科麻酔、手術麻酔）
小林　玲音　（ペインクリニック、手術麻酔）
石田　裕介　（心臓麻酔、手術麻酔、集中治療）
五十嵐　友美（集中治療）
原　詠子　（ペインクリニック、手術麻酔）
泰地　沙季　（手術麻酔）
佐々木　友美（手術麻酔）
五反田　倫子（産科麻酔、手術麻酔）
落合　弦　（産科麻酔、手術麻酔）
飯島　香子　（産科麻酔、手術麻酔）
髙橋　有里恵（小児心臓麻酔、手術麻酔）
羽二生　毬子（手術麻酔）

麻酔科認定病院番号：33

特徴：手術症例が豊富で専門医取得に必要な特殊症例が当施設で研修できます。食道手術、肝臓手術、呼吸器外科手術などの麻酔管理を十分に経験でき、心臓血管外科も成人と小児の両方を数多く行っています。手術麻酔に加えてペインクリニック、無痛分娩（産科麻酔）、集中治療、緩和医療などのサブスペシャルティの研修も可能です。多職種による術前外来も開設しており、専門医が習得すべき周術期管理をバランス良く学べます。

東京都済生会中央病院

研修実施責任者：佐藤　暢一
専門研修指導医：佐藤　暢一　（麻酔全般、集中治療）
齋藤　慎二郎（麻酔全般）
奥　和典　（麻酔全般、産科麻酔）
樋口　慧　（麻酔全般、神経ブロック）
宮山　直樹　（麻酔全般）
一柳　弘希　（麻酔全般、心臓麻酔、小児麻酔）
鈴木　陽　（麻酔全般）
齋藤　陽菜　（麻酔全般、神経ブロック）
馬場　寛子　（麻酔全般）
黒瀬　瞳　（麻酔全般、心臓麻酔、小児麻酔）
静谷　泉　（麻酔全般、心臓麻酔、小児麻酔）
佐川　智紀　（麻酔全般、心臓麻酔）

認定病院番号：978

特徴：済生会中央病院は大正 4 年開院の済生会芝病院を前身とし，東京都港区中央部に位置し， 35 の診療科を備える総合病院である．麻酔科専門研修においては一般外科，心臓血管外科，呼吸器外科，脳神経外科，整形外科，血管外科，産婦人科，泌尿器科，TAVI（経カテーテル大動脈弁植え込み術）など幅広い症例の麻酔管理を研修することが可能である．また当院は東京都指定の三次救急医療機関かつ災害拠点病院であり，多数の救急搬送患者を受け入れている．そのため多くの緊急手術や重症患者の麻酔管理を経験することができる．手術麻酔以外では手術前外来を開設しており，集中治療，和痛分娩，緩和医療などの業務も担っている．希望に応じてこれらの麻酔科関連領域の研修も可能である．当院の麻酔科専門研修プログラムにおいては，1-2 年次は当院で全般的な麻酔研修を指導医とともに行う．当科は特定の大学病院医局の関連施設ではないが，研修関連施設には小児麻酔，小児心臓麻酔，心臓麻酔の症例数が多い病院が含まれており，3－4 年次は個人の希望に応じてそれらの施設で特定の分野の専門研修を行う事が可能である．

医療法人徳洲会　湘南鎌倉総合病院

〒247-8533 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 TEL：0467-46-1717
（URL：https://www.skgh.jp/department/anesthesiology/）



研修実施責任者：倉橋　清泰
専門研修指導医：倉橋　清泰　（麻酔全般、集中治療、生理学、基礎・臨床研究）
相野田　桂子　（麻酔全般、心臓血管麻酔）
石川　亜希子　（臨床麻酔）
太田　隆嗣　（麻酔全般、心臓血管麻酔、集中治療）
今西　晶子　（麻酔全般、小児麻酔）
菊池　佳奈　（麻酔全般、小児麻酔、産科麻酔）
渡邊　至　（麻酔全般）
春原　啓人　（麻酔全般）
吉村　円花　（麻酔全般）
黒澤　暁子　（臨床麻酔）
勝井 真咲 アン（臨床麻酔）
館山　亜弥　（麻酔全般）
西嶋　千絵　（麻酔全般）
藤木　翔太　（麻酔全般）
ヨナシロ　祥子（麻酔全般）

認定病院番号: 1436
麻酔科管理症例数：症例　8117(2025年度)

特徴：鎌倉市、横浜市、藤沢市という一大医療圏にまたがる地域の中核病院であり、徳洲会グループの中でもフラグシップ病院としての機能を担っています。去年、第8版にバージョンアップしたJCIを高い成績でクリアし、安全・安心な質の高い医療を提供しています。
麻酔科研修上の特徴を以下に列挙します。

- 豊富な手術件数とバランスのとれた手術内容で、麻酔研修（一般および特殊麻酔）を 3年間で終了させることができます。
- 定型的な心血管手術に加え、低侵襲心臓手術（MICS）、低侵襲カテーテル手術（TAVI, Mitral Clip, 左心耳閉鎖）へも積極的に関与しています。これらの研修を通じて循環管理の要点を習得できます。
- 心臓血管麻酔学会認定医兼JB-POT習得者が複数名おり、経食道心エコーの修得が容易にできます。
- 麻酔科は今の時代手術室だけに留まっていません。当院では、無痛分娩、陽子線治療を受ける小児の鎮静、カテ室での脳血管内治療（DSA）、婦人科の小線源治療など、手術室外の処置に積極的に関与しています。
- 緊急手術が豊富なことから、定型的な手術麻酔とは異なる応用力を身につけることができます。将来「麻酔科専門医です」と言うからには、このような対応を卒なくこなすことが求められます。
- 長年医育機関に勤務し、また学会教育委員を務めていた倉橋主任部長がプログラム統括責任者を務め、総合的に質の高い教育プログラムを提供しています。
- 医療の世界は屋根瓦式教育と言われていますが、専攻医の一つ下の瓦には、４倍近い倍率を潜り抜けてマッチングしてきたやる気に溢れる23人の研修医が収まっています。これの意味するところは、そのような研修医の直属の上司となる専攻医は、彼らに教えながら高いレベルで自身も成長できるということになります。

医療法人徳洲会　湘南藤沢徳洲会病院

研修実施責任者：福井　公哉
専門研修指導医：福井　公哉　（臨床麻酔・心臓麻酔・集中治療）
指導医：日野　智子　（臨床麻酔・シュミレーション）
大澤　眞理子　（臨床麻酔）
窪田　絹子　（臨床麻酔）
野中　裕子　（臨床麻酔・ペイン）
浅見　優　（集中治療）
今永　和幸　（心臓麻酔）
横内　かつみ　（臨床麻酔）
小出　史子　（臨床麻酔）
小澤　寛子　（臨床麻酔）
小野寺　潤　（臨床麻酔）
増田　義之　（臨床麻酔）
長谷　知美　（心臓麻酔）
樋口　裕樹　（臨床麻酔）
廣田　遥子　（臨床麻酔）

認定病院番号：879

断らない医療をモットーに運営している総合病院である。一般的な手術症例は、偏りが少なく、心臓麻酔、産科麻酔、小児麻酔、脳外科、呼吸器外科、ロボット支援下手術症例も経験することができる。神経ブロックなどの区域麻酔も積極的に行っている。手術症例以外では、経食道心エコー検査に従事しており、経験を積める。集中治療室運営を強化中である。2026 年度からペイン診療を強化し、さらに無痛分娩を開始している。

岡山大学病院

研修実施責任者：森松　博史
専門研修指導医：森松　博史　（麻酔，集中治療）
岩﨑　達雄　（麻酔，集中治療）
清水　一好　（麻酔，集中治療）
松岡　義和　（麻酔，集中治療）
金澤　伴幸　（麻酔，集中治療）
鈴木　聡　（麻酔，集中治療）
谷　真規子　（麻酔，集中治療，医学教育）
荒川　恭佑　（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
岡原　修司　（麻酔，集中治療）
清水　達彦　（麻酔，集中治療）
伊加　真士　（麻酔，集中治療）
大岩　雅彦　（麻酔，集中治療）
片山　明　（麻酔，集中治療）
佐倉　考信　（麻酔，集中治療）
須江　宣俊　（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
河野　圭史　（麻酔，集中治療）
木村　貴一　（麻酔，集中治療）
根ケ山　諒　（麻酔，集中治療）
山﨑　友輔　（麻酔，集中治療）
専門医：礒山　智史　（麻酔，集中治療）
杉原　真由　（麻酔，集中治療）
松岡　勇斗　（麻酔，集中治療）
池田　遼太郎（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
伊藤　慶昭　（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
寺尾　英梨奈（麻酔）
藤井　彩加　（麻酔，集中治療）
市瀬　仁　（麻酔，集中治療）

認定病院番号:23

特徴：小児心臓手術や臓器移植手術（肺，肝，腎）などの高度先進医療に加えて，食道手術や呼吸器外科手術における分離肺換気など特殊麻酔症例も数多く経験できる．　また麻酔のみならず，小児を含む集中治療（20床），ペインクリニックの研修も可能である．また周術期管理センターが確立しており，多職種による周術期チーム医療システムを学ぶこともできる．

小倉記念病院

研修実施責任者：角本　眞一
専門研修指導医：角本　眞一　（麻酔、集中治療）
中島　研　（救急）

宮脇　宏　　（麻酔、集中治療）
近藤　香　　（麻酔、集中治療）
松田　憲昌　（麻酔、集中治療）
栗林　淳也　（麻酔、集中治療）
小林　芳枝　（麻酔、集中治療）
生津　綾乃　（麻酔、集中治療）
柳　　明男　（麻酔、集中治療）
釜鳴　紗桐　（麻酔、集中治療）
彼末　行世　（麻酔、集中治療）

認定病院番号：52

特徴：心臓大血管手術のみならず、TAVR、Mitral clipなどの低侵襲手術にも力を入れている。循環器疾患を合併した非心臓手術の麻酔症例も数多く経験できる. 集中治療にも力を入れている。

東京都立荏原病院

研修実施責任者：加藤隆文
専門研修指導医：後藤 隆久　（麻酔）
加藤 隆文　（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
佐藤 千穂子（麻酔）
中島　愛　　（麻酔）
大島　雪乃　（麻酔）

認定病院番号 792

特徴：当院は地域における急性期脳血管疾患医療の中核となっている。脳神経外科、産婦人科の他、11 の診療科に対応しており、偏りのない麻酔管理が経験できる。緊急手術も多く、救急診療における麻酔管理を学べる。
また当院では ICU 専任医師を麻酔科が毎日担っており、症例は限られるが集中治療管理を学べる。
当院では 2023 年度から無痛分娩を開始し、実施数は増加している。
小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科などの当院で経験できない麻酔管理は専門研修連携施設で研修を行いより専門的な知識と経験を得られるようにしている。
当院は都内で 4 か所しかない第一種感染症指定医療機関の一つである。
当院は日本ペインクリニック学会の研修指定施設であり、学会専門医をとることが可能である。
また当院は日本緩和医療学会認定研修施設で、麻酔科も緩和ケアチームに参加しており緩和ケアを学べ、緩和医療学会専門医取得も可能である。

麻酔科管理症例数 2272 症例

東京都立小児総合医療センター

研修実施責任者：西部　伸一
専門研修指導医：西部　伸一　（小児麻酔）
山本　信一　（小児麻酔）
簑島　梨恵　（小児麻酔）
伊藤　紘子　（小児麻酔）
箱根　雅子　（小児麻酔）
佐藤　慎　（小児麻酔）
千田　雄太郎（小児麻酔）
専門医：福島　達郎　（小児麻酔）
和田　涼子　（小児麻酔）

認定病院番号：1468

特徴：地域における小児医療の中心施設であり、治療が困難な高度専門医療、救命救急医療、こころの診療を提供している。年間麻酔管理件数が 4000 件以上と症例数が豊富で、一般的な小児麻酔のトレーニングに加え、新生児麻酔、心臓麻酔、気管形成術の麻酔などの研修が行える。また、積極的に区域麻酔を実施しており、超音波エコーガイド下神経ブロックを指導する体制も整っている。2019 年度より心臓血管麻酔専門医認定施設となっている。

昭和医科大学藤が丘病院

研修実施責任者：岡安　理司
専門研修指導医：岡安　理司　（麻酔）
桑迫　勇登　（麻酔）
金田　有理　（麻酔）

認定病院番号：165

特徴：神奈川県横浜市南区北部地域における急性期中核病院である．小児麻酔は形成外科症例が中心で、先天性疾患による挿管困難症例も多い．脳神経外科、心臓血管外科症例は血管内治療症例を多く研修でき、また３次救急センターを併設しているため、救急症例についても多く研修することが可能である．

昭和医科大学江東豊洲病院

研修実施責任者：大塚　直樹
専門研修指導医：大塚　直樹　（手術麻酔）
鈴木　尚志　（手術麻酔、集中治療）
田中　典子　（手術麻酔）
森　麻衣子　（集中治療）

認定病院番号：1182

特徴： 急性期医療に特化した大学病院の分院であり外科系全科を擁しており、多様な症例を経験できる。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに志望の研修プログラムに応募する.

問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせ先は下記のとおり．電話，e-mailいずれの方法でも可能である.

昭和医科大学横浜市北部病院　麻酔科
担当：信太　賢治　（しだ　けんじ）
〒224-8503　神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1
TEL　045-949-7000
FAX　045-949-7365
E-mail　ken1174@med.showa-u.ac.jp
Website　https://www.showa-hokubumasui.jp/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる.

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシルティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る.

麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する.

麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する.

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる.

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する.

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する.

【専門研修１年目】
手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の下，安全に周術期管理を行うことができる.

【専門研修２年目】
１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導の下，安全に行うことができる.

【専門研修３年目】
心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医の下，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する.

【専門研修４年目】
３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる.

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

形成的評価

【研修実績記録】

専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する.

研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される.

【専門研修指導医による評価とフィードバック】

研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる.

総合的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する.

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる.

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある.

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する.

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

専門研修の休止

専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う.

出産あるいは疾病などに伴う、通算で 6 ヶ月以内の休止は研修期間として認められる.

妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする.

研修プログラムの休止は、休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を超えていなければ，研修開始からの研修期間、及び症例はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす.

2 年を超えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない.

ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める.

専門研修の中断

専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする.

専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる.

研修プログラムの移動

専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める.

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院として幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する.

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します.

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します.